

令和8年度 第1回 大野市廃棄物減量等推進審議会議事趣旨

日 時 令和8年8月12日（水）
午後7時00分～8時45分
場 所 結とぴあ 302号室

1 開会

2 くらし環境部長あいさつ

3 審議会の趣旨説明

事務局から資料1に基づき説明

4 会長、副会長選出

5 議事

（1）廃棄物関連施策の取組状況及び数値目標の達成状況について（令和7年度）

事務局から資料2および小型充電式電池回収について説明

委員からの意見等は次のとおり（要旨）

委員：収集にまわっているとやはり量が多く出ている地区がある。1家庭で3袋以上出しているのか、社会奉仕なのか判断がつかない。このような場合はリサイクルにまわすとよいのではないか。

事務局：ステーションに草ごみが多く出てしまうこともあると思うが、人口減少している中、社会奉仕の継続に支障を来しているとの声も聞かれる。ステーションに出さないよう制限をかけることで、長く続けていただいた社会奉仕が途絶えてしまう可能性がある。市の管理する公園の草は市が回収する仕組みとなっているが、今後はステーションに出す地区が多くなっていくと推察する。

委員：4点質問する。

1点目、草の資源化となるとたい肥しか思い浮かばないが実際何になるのか。また、昨年と比べて回数、量とも伸びているが、平日を加えただけでこのような結果なのか、または何か別の要因があるのか。

2点目、ごみの資源化の数値について、なぜ2段書きなのか、下の数字はなにか。

3点目、食品ロスの発生量の減少理由はなにか。

4点目、資源化率は、昔から全国や福井県を上回っている。なぜ目標数値を高く設定したのか。達成見込みはいかがか。

事務局：1点目、草ごみはたい肥として資源化している。加えて、社会奉仕では剪定枝などの持ち込みもあるため、木くずはチップにしてグリーンパワーの発電燃料としている。

草ごみ資源化の取組は令和6年度から行っており、初年度は周知が十分でなかった地区があったものと推測する。

2点目、「ごみの資源化率」について、下段の括弧書きとなっている数値19.7%は全国

や福井県の算出基準に合わせた数値である。一方で、上段の23.3%は、第三期環境基本計画により5年後の目標を31%と設定した基準により算定しており、一般廃棄物処理業者が資源化した廃棄物量をすべて含んだ数値とした。

資源化率の関連で4点目、令和7年度は、5年後の目標から離れた実績となっており、目標達成には厳しい状況にある。

3点目、食品ロスの指標は推計値である。大野市独自で組成調査をするには経費がかかるため、消費傾向が似ている福井市の調査結果を参考としている。福井市の組成調査の結果割合に大きな変更があり、大野市の食品ロス量に反映した。

委員：昨年資料では、シュレッダーごみの量や、空き缶等の回収結果が記載されていたように思うが、実際は取り組んでいるか。今年は資料にないという理解でよいのか。

事務局：令和7年度においても同様にシュレッダーごみの回収や福祉施設での空き缶等回収は実施されている。これらの回収量は資源化率の積算に含まれている。個別事業者の実績を掲載することは事業活動に関する情報となるため、今後は、掲載しない方針である。

委員：ごみ当番になったときに、分別していないごみの仕分け作業をしなければならなかった。その中にハンディファンが入っていたが、小型充電式電池を含む製品について、拠点まで持ち込む必要があることに負担を感じた。ステーションに排出すると収集車で火災が起これかねないということは理解しているが、配布予定のチラシではステーションに出していけないことが高齢者に伝わらないのではないのか。

事務局：国では回収方法を決めておらず、ステーション回収を実施している市町に聞き取りを行っても安全に回収する有効策がない中で、大野市では安全第一として、拠点回収において職員が直接回収している。区長やごみ当番の方々にはご不便をおかけするが、拠点まで持ち込んでいただきたい。

委員：昨年、消防署の防火講習を受けた際にこの取組を知った。最近リチウムイオン電池由来の火事が非常に多く、身の回りにも充電式電池がたくさんある。市による回収体制が整備されたことは非常にありがたい。

委員：リチウムイオン電池の回収した後の流れを知りたい。

委員：ビュークリーンおくえつに集められ、小型家電処理事業者に引き取りを依頼する。

委員：充電式電池を自身も業務上取り扱っているが、手数料がかかる。市で回収する場合は無料となるが、小型家電事業者の引き取りは無料か。

委員：有料である。

委員：今後もリチウムイオン電池の製品は増え続ける。このまま市の財政で処理費用を賄っていくことは、住民として財政的に懸念がある。これに変わるリサイクル率を上げて税金が増えるような仕組みをつくるとよいと考える。

（２）その他（ごみ収集体制と分別の見直しについて）

事務局から資料3について説明

委員：プラスチックごみの品目の検討に関して、専門業者を交えて意見交換をする機会はあるか。

事務局：収集業者の意見聴取、市民のこれまでの苦情の取りまとめは大野市の役割である。集約

して、広域事務組合に伝える。

委員：間違いやすいものなど、少しずつ品目を増やしてもらえるとよい。

現在の埋立処分場エコバレーの状況を教えてほしい。

委員：本年度、エコバレーの埋立量の変更許可がおりたところである。人口とともにごみ量が減少すると考えており、15年は確保できる見込みである。

委員：プラスチック資源収集の日に、ごみステーションには1個程度しか出されておらず、大きい収集車で1個だけ回収するような状況である。当初は、積極的に分別・排出が行われていたが、回収対象外となる品目が多いことから、次第に排出されなくなったと感じている。このような状況で、プラスチックの品目を増やすというのはいかがなものか。それよりも不燃ごみの日を週1回に戻していただきたい。プラスチックはびんと一緒にするのはどうか。

委員：プラスチックの回収について、始める前はプラスチックごみがたくさん出るという話であった。したがってプラスチックの日を設けたが、あまりにも回収できる品目が少なすぎて集まらないというのが現状。

分別について、最低限の分別は必要ではあるが、リサイクル対象外の品目が混入していた場合は施設側で選別すればよい。そのような運用についても検討していかないとリサイクル率は上がらないと考える。

事務局：課題がある中で、今後検討を進めるうへでご協力をいただきたい。

ただし、ビュークリーンおくえつでは大規模な基幹的設備改良工事を行い、15年の延命を行っている。施設を最大限活用したうへで課題解決を図るにはどうすると良いかについて、今後ご相談させていただきたい。

委員：ごみ当番が回ってきたときに回収されていないごみの分別・処理はむずかしい。新しいものもどんどん出てくる。みんなでなんとか取り組んでいかなければならない。

委員：分別方法を、どうPRするかが大きな課題と感じる。高齢化すると情報が入りにくい。昨年ビュークリーンおくえつ施設見学会に参加したときは、実際見てみて分かったところが多くあった。例えば、地区単位で見学の日を設けるなどうまくPRができると良い。

委員：市民の意識の高さは人それぞれなので、相互扶助の考えで、近所のだれに聞けば全部わかるような仕組みで大野を盛り上げると良いのではないか。つながりのある温かい市となるよう、市民も頑張る、市も頑張るといった感じでやっていけると良い。

6 閉 会

副会長あいさつ